

20045

補助循環装置(PCPS)トレーニングから見えた課題

当院臨床工学部は技士数 23 名(技士長 1 名、出向 2 名、新人 4 名を含む)のうち、15 名で夜間 1 名による宿直業務を行っている。宿直者には体外循環業務に従事していない技士も含まれるため、夜間帯に補助循環装置(以下 PCPS)の管理を安全に行えるように、PCPS の導入からトラブル対応までのトレーニングを実施している。今回、シミュレーショントレーニングの結果から見えた今後の課題について報告する。方法平成 25 年 7 月から平成 26 年 2 月の間で、PCPS トレーニングが必要な技士 10 名(体外循環業務未経験者)にトレーニングを実施した。臨床管理中に予想される対応およびトラブルについて 20 項目作成し、評価した。対応ミスと判断した項目について集計を行った。結果トレーニングは 18 回(平均 1.8 回/人)実施した。対応ミスは全体で 70 件であった。最も多かったのは、遠心ポンプ 33 件で、全体の約 47%を占めた。続いてコミュニケーション 17 件、患者状態の把握 16 件、人工肺 2 件、その他 2 件であった。考察 遠心ポンプ操作の経験不足から、対応ミスが多くなったと考えられる。透析業務経験者では、ローラポンプと遠心ポンプ操作の違いについて理解不足があったことも要因の一つである。緊迫した状況設定により、周囲に意識を向ける余裕がなくなり、患者状況の把握やコミュニケーションのミスにつながった可能性がある。結語今後、臨床における安全な PCPS 管理を目指し、遠心ポンプの操作に重点をおいたトレーニングが必要であることがわかった。